2019年1月24日(木)

平成30年度　全国科学館連携協議会　中四国ブロック会議　報告書

徳島県立あすたむらんど子ども科学館
展示グループ　石川　めぐみ

日時	2019年1月20日(日)　12:50～17:00　および　1月21日(月)　10:00～12:30
会場	高知みらい科学館（高知県高知市追手筋2丁目1－1）
参加者	1日目　連携協事務局 1名・加盟館 14名（9館）（合計 15名） 2日目　連携協事務局 1名・加盟館 13名（9館）（合計 14名）
目的	全国科学館連携協議会規約に基づき、その目的に沿った事業の円滑な運営を図ると共に、本会議加盟館相互の交流を深め、地域の特性を生かした事業に取り組むことにより、中四国の科学普及向上に寄与することを目的とする。
内容	1月20日(日) ①開会　12:50～ 開会挨拶　【高知みらい科学館　主査（学芸員）　岡田直樹】 （以下、敬称略） ②各加盟館によるワークショップ実演　13:00～16:00 「オレンジの力でオリジナルスタンプを作ろう」（出雲科学館） 「親子で参加！ロボット入門」（情報通信交流館e-とぴあ・かがわ） 「つくると　わかる　わたしたちのからだ」（川崎医科大学現代医学教育博物館） 「おもしろ科学実験　藍染めをカガクしよう」（阿南市科学センター） 「おもしろ科学実験　光の三原色であそぼう」（阿南市科学センター） その他、高知みらい科学館の「静電気のサイエンスショー」、ミニかがく教室「かえるのぴょん」、からくり人形実演、デジタル地球儀実演を実施。 ③ワークショップ意見交換会　16:00～16:55 各ワークショップについて、担当者よりワークショップの概要説明ののち、質疑応答を行った。 ・「オレンジの力でオリジナルスタンプを作ろう」（出雲科学館） リモネンの力で発泡スチロールを溶かしてスタンプを作るワークショップ。発泡スチロールは硬いものを使い、オレンジオイルも薄めるなど、発泡スチロールが溶けすぎないように工夫している。 ・「親子で参加！ロボット入門」（情報通信交流館e-とぴあ・かがわ） レゴブロックを使ったプログラミングを実施した。授業形式で学べる「WeDo」という教材を使って、レゴブロックでロボットを作る、プログラミングを作る、ロボットが動くか実験する、の一連の流れを行い、参加者には課題をあげつつオリジナルのプログラミングを作っていただいた。 ・「つくると　わかる　わたしたちのからだ」（川崎医科大学現代医学教育博物館） ワークショップは医学教育がメインであり、今回は消化器エプロンとパタパタカードを実施した。使用するものは基本的にアナログでコストも低く、デザインも自館で

内容	行っているため外部委託はしていない。 ・「おもしろ科学実験　藍染めをカガクしよう」（阿南市科学センター） 今回はサイエンスショー形式で実施した。藍染めの科学的な要素をおもしろいと思っていただけるように内容を考えている。藍は自分たちで育てているものを使用している。 ・「おもしろ科学実験　光の三原色であそぼう」（阿南市科学センター） 阿南市は「光のまち」であり、LEDを使った事業が盛んであるため、LEDを用いたサイエンスショーを実施した。コップの中にLEDを入れ、色を作り出す実験は子どもに人気があり、きれいに光が混ざって見えるよう工夫している。 ・高知みらい科学館実演内容について ミニかがく教室 毎週日曜日の午前・午後2時間ずつ実施している。未就学児とその保護者を主な対象としており、科学の導入として科学の現象を使った実験・工作を行っている。 サイエンスショー 午前・午後の2回実施している。教員が行っており、2か月ごとにメニューを変更している。 からくり人形実演、デジタル地球儀実演 ただ展示しているだけでは面白味が薄いため、実演時間を設けている。 ④連携協事務局より報告等　16:55～　【連携協事務局　原育美】 ・2019年度巡回展の貸出し案内 ・次年度の白川英樹博士の特別実験教室について ・次年度のＢＭＷ協賛事業について　など ⑤諸連絡　17:00～　終了 ⑥高知みらい科学館　プラネタリウム観覧　17:15～18;00 プラネタリウム職員による参加者向けの投映および機器説明等を行った。 ⑦情報交換会　19:00～21:00 会場：須崎魚河岸　魚貴

内容	1月21日(月) ①報告　10:00～12:00 各館情報交換 資料にもとづき、各館による入館者数の状況、特別展開催結果などの報告及び質疑応答を行った。 ②協議　12:00～12:30 資料参照ののち協議を行った。 1. 科学普及事業の評価方法について ・企画や出張授業などの活動も評価に入れられるよう取り組んでいる。 (川崎医科大学現代医学教育博物館) ・アンケートはどこの館も実施していると思うが、数値化しづらい部分を数値化できればより評価軸として用いることができる。また、アンケート内容は館によって異なるため、他館と連携して共通の評価基準を設けられれば他館と比べることができるのではないか。(徳島県立あすたむらんど子ども科学館) ○アンケートで工夫しているところについて ・中間の意見をどう判断するかという問題を解決するため、項目を「よかった」と「よくなかった」の2択にしている。(情報通信交流館e-とぴあ・かがわ) ・「おすまいは？」という項目を設けている。また、オーテピアが地域活性化を目指す施設であるため、高知県内のほかの施設に行ったか(行く予定があるか)を聞く項目を設けている。満足度については10段階で数値化している。アンケートは集計に人件費がかかるため、実施する日をあらかじめ決めている。 (高知みらい科学館) ・アンケート内で、次はどのようなものをやってみたいかを聞いている。 (出雲科学館) 2. 平日の来館者を増やす取り組みについて ・藍染めはかなり大人受けしている印象。草木染も同様である。特にご年配の女性を中心に人気があった。(阿南市科学センター) ・デスクトップパソコンが並んでいるパソコン室があるのだが、そのうち何台かパソコンを取り外してコンセントのみにした。また、飲食コーナーでは電気がとれるようにいくつかコンセントを来館者が使えるようにしたところ、まだ数値には表れていないものの来館者の顔ぶれが少し変わったように感じる。 (情報通信交流館e-とぴあ・かがわ) 3. 展示装置の更新について ・各館手作りの展示物なども所有しているので、他館から展示物を借りて新たに展示できればリピーターにもつながるのではないか。 (徳島県立あすたむらんど子ども科学館) ・使わなくなった展示物は連携協に連絡していただければ他館に寄贈できるので、活用してください。(連携協事務局)

内容	12:30　終了・解散 13:30～　高知みらい科学館　施設見学（希望者のみ） 科学館はオーテピアの5階にあり、プラネタリウム・展示室・実験室などがワンフロアに収まっている。アイテムサインは大きく作られており、手すりは多く設置され、また音声や視覚を用いた案内を行うなど、あらゆる人が施設を利用しやすいような作りになっていた。

記録写真①

ワークショップ（出雲科学館①）

ワークショップ（出雲科学館②）

ワークショップ（川崎医科大学現代医学教育博物館）

サイエンスショー（高知みらい科学館）

ワークショップ（e-とぴあ・かがわ）

記録写真②

サイエンスショー（阿南市科学センター）

サイエンスショー（阿南市科学センター）

会場館挨拶

ワークショップ意見交換会

高知みらい科学館　プラネタリウム

会議風景